

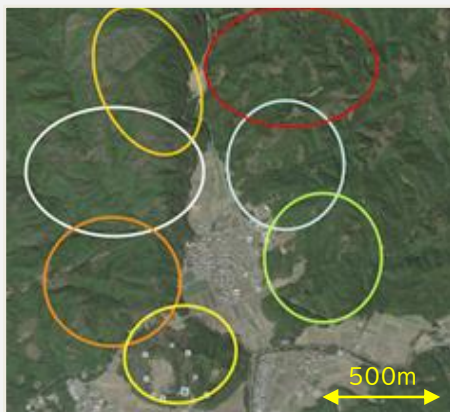
なぜ「集落」での捕獲が必要か？

集落での被害軽減のためには、被害の原因となる加害個体を集中的に捕獲する必要があります。集落で捕獲する手法としては、箱わなが最も容易です。また、防護柵等で侵入を防ぎながら、外部のシカやイノシシを捕獲する必要があります。

集落周辺のシカ、イノシシの行動範囲

シカ

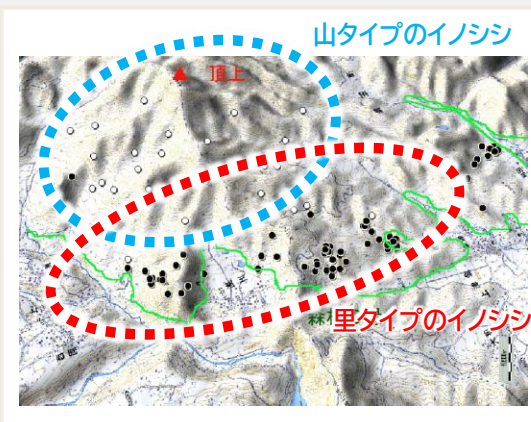
- 行動範囲は、1km四方程度
- 昼間は山で、夜は集落で採食
- 季節変動はあまりない



三重県農業研究所:シカGPS調査結果の模式図

イノシシ

- 山中で獲ったイノシシは、山中が行動域
→ 山タイプのイノシシ
- 集落周辺で獲ったイノシシは、集落に依存した行動域
→ 里タイプのイノシシ <加害個体>

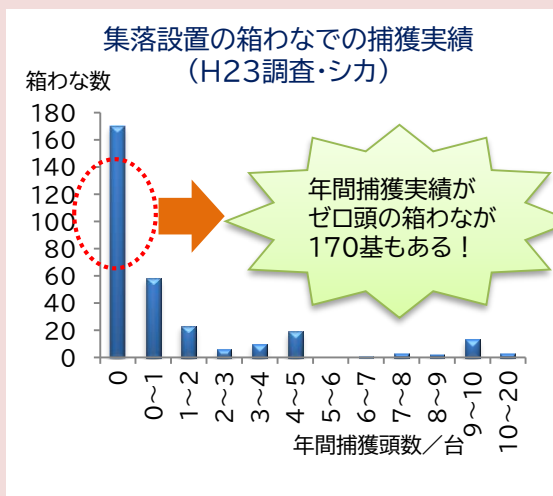


提供:山梨県総合農業技術センター:本田 剛

- ✓ 集落周辺で加害個体(グループ)を捕獲する必要がある
- ✓ 捕獲手法としては「箱わな」が最適。

箱わなでの捕獲状況

種々の事業で集落に配備されている箱わなは、必ずしも十分な捕獲実績をあげていないのが実情です。基本的な技術不足も原因の一つです。



H23年度農業被害状況調査より



- ✓ 基本的な技術を身につけることで、捕れていない箱わなを、年間で数頭捕獲するレベルに改善することは十分可能です。

効率的な

箱わな捕獲マニュアル

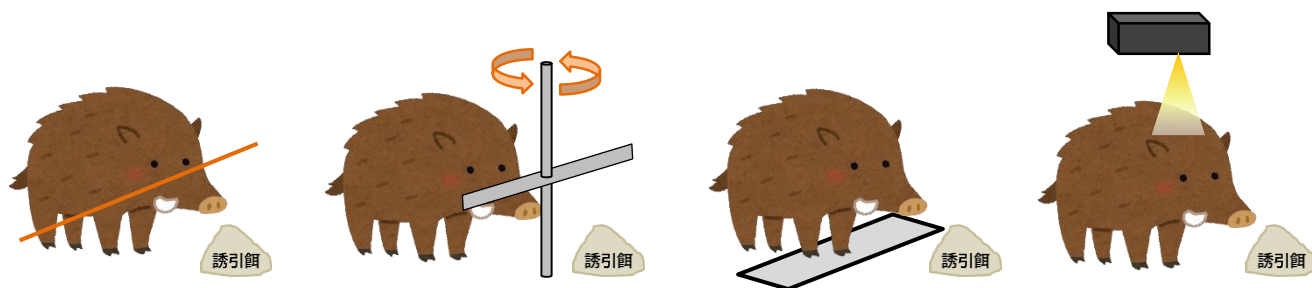
一般的な「わな」の種類と特徴

集落で取り組む捕獲に適する

	わなの種類			
	箱わな	ドロップネット	囲いわな	くくりわな
捕獲方法	餌付けして捕獲	餌付けして捕獲	餌付けして捕獲	餌付けなし捕獲
捕獲の難易度	容易	容易	容易	難しい
購入費用	中くらい	高い	高い	安い
わなの移動性	やや高い	中	ほとんどなし～中	高い
1捕獲あたりの頭数	1頭	多頭	多頭	1頭

☑ 餌付け(エサの管理)や、わなの見回りには、狩猟免許は必要ありません。

箱わなの主なトリガーの種類と特徴



引き糸(蹴り糸)方式

獲物の体高に合わせて調節

回転方式

獲物の体高に合わせて調節

踏み板方式

獲物の体重に合わせて調節

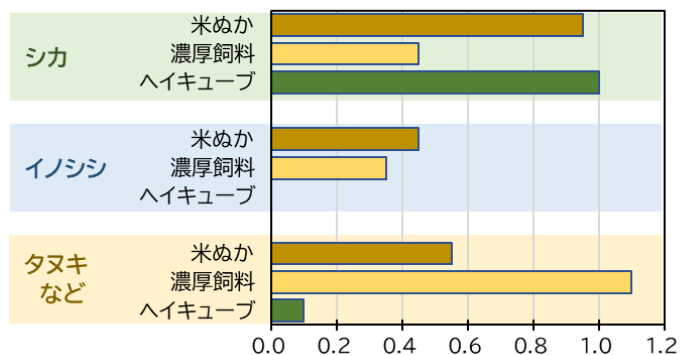
センサー方式

獲物の体高に合わせて調節

誘引に効果的なエサについて

- ☑ 入手のしやすさと嗜好性を考慮すると、シカには**ハイキューブ(乾燥牧草)**、イノシシには**米ぬか**が効果的です。

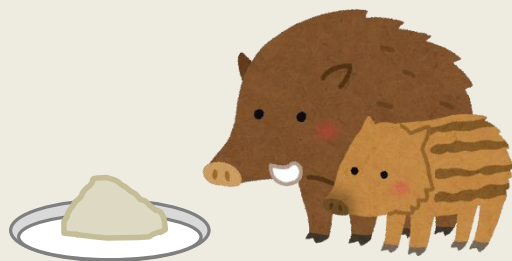
エサの種類別の採食時間



※1カ所の農地での5ヶ月間の自動撮影カメラによる調査で、シカがハイキューブを採食した時間を1.0としたときの比較値

- ☑ 餌の量は控えめにし、1日で食べきれない量を撒く。満腹になると箱わなに入らなくなる。
- ☑ 腐敗した餌は警戒されるため、2～3日に1回は交換。特に、米ぬかは腐りやすいので小まめに交換を。
- ☑ 餌に塩を混ぜると、授乳期の雌シカの誘引効果が高まることも。
- ☑ 牧草をペレット化したハイペレットも使いやすい。
- ☑ 周辺に青草が多い夏は、シカの誘引餌として米ぬかを使うなどの工夫を。

注) : 県内農地での1年間の試験結果です。周辺の農作物や植生によって、動物の嗜好が変わることがありますので地域の狩猟者の方々の意見も参考に誘引餌を選択してください。



捕獲成功のカギは餌付け！

- ①本来は警戒心が強く、臆病
- ②エサが安定して食べられる場所を覚える
- ③安心してエサを食べられる場所では徐々に警戒心が薄れていく

上記①～③の野生動物の性質を理解し、「箱わなで食べられる」、「箱わなは危険じゃない」と学習させることが大切



Step ① 場所を決める

- 管理上の利便性の良さなどの人間側の都合より、動物の利便性の良い所を選ぶこと！

※巻末に実例



Step ② 箱わなを置く

- 捕獲時と同じ環境にするため初めからトリガーなどは仕掛けておく。

- ただし、ゲートだけは落ちないようにストッパーをし、固定しておく
- 箱わなの工業用油の臭いや塗料の臭い、下部メッシュの埋戻しなどは、(諸説ありますが)餌付けがしっかりできていれば、それほど大きな問題ではない。



Step ⑤ 捕獲後は…？

- 捕獲後、すぐに次の個体がある場合もあるが、暫く来ない場合も多い

- 再度、箱わなの外～入り口にエサを置き、入りそうか再チェック
- エサが食べられていれば、捕獲継続
- 来てなければ、Step③～④を繰り返す
- 餌付けを続けても食べない場合は、箱わなを少し移動させてみるのも良い



Step ③ 餌付けて誘引する

- 警戒心が完全に無くなるまで餌付けする

- 餌付けは箱わなの手前(外側)から順番に誘引する
- 誘引できたら、手前のエサは除去(いつまでも置いておかない)
- 餌の減り具合を見ながら徐々に箱わなの中へ餌付けし、一番奥でも警戒心なく食べるようになるまでしっかり餌付けする
- 1度に大量に与えず、毎日欠かさず、1日で食べられる量だけのエサを置く
- 一番奥のエサが連日完食されるようになればOK
- エサを置いても食べない場合は古くなったエサを除去し、新しいエサを置き直し、しばらく様子を見る



Step ④ 捕獲する

- 捕獲当日はエサを外から取られない程度に、なるべく奥の方に置く。

- トリガーやゲートがスムーズに作動するか、入念にチェックする。



しばらく餌付けしても餌が食べられない時は…

- エサの種類を変えてみる
- 他のエサになるもの(農作物等)の管理を徹底する
- 場所を変える
- 無理をせずしばらく休む
- くくりわなも併用してみる

被害対策と捕獲を並行して行う



- エサ資源が減ることで、箱わなのエサに誘引ができる
- 侵入意欲のある個体が加害個体である可能性が高い
- 防護柵周辺を探索するため、箱わなのエサに興味を持たせやすい

- 交付金で集落防護柵を設置
- 大部分のシカ被害は低減したが、河川と道路からの侵入による被害が継続
- ★印の場所で13頭の侵入個体を捕獲
➔ 被害は大幅に低減



防護柵と捕獲の事例

箱わなを使用した集落での捕獲実践例



捕獲実績 = 13頭 / 年



設置ポイント

- ✓被害農地近くの山際
- ✓足跡や獣道近く
- ✓道路等から隠れた場所

年13頭の捕獲実績は、決して多くはありませんが、箱わな捕獲初心者の農業研究所職員等が集落へ週2回程度通って捕獲した実績です。そのような状況でも十分捕獲実績が出せるということを証明する実証結果です。集落在住の住民であれば、これ以上の捕獲は十分可能です。

箱わな捕獲の注意点

- ✓ 餌のやりすぎに注意！ 過剰な餌やりは、腐敗による悪臭などの問題を生む恐れがあります。
- ✓ 捕獲時の対応は迅速に！ 捕獲した獲物の放置は、捕獲効率の低下や事故につながる恐れがあります。
- ✓ わなのメンテナンスは頻繁に スムーズに作動しない箱わなでの捕獲は獲物を取り逃がすだけでなく、深刻な事故を引き起こす恐れがあります。
- ✓ 餌付けた獲物は確実に捕る 野生動物への餌付けは餌の味を覚えさせる事になるので被害を助長する恐れがあります。
- ✓ 捕獲可能な状態は最短で！ 捕獲時、トリガーを作動させた状態や、ゲートのストッパーを外した捕獲待機状態で長期間放置すると重大な事故が起こる恐れがあります。



作成：三重県農業研究所 TEL 0598 (42) 6356

発行・問い合わせ先：三重県農林水産部獣害対策課 TEL 059 (224) 2017

(当資料はHPからダウンロードできます <https://www.pref.mie.lg.jp/nougi/hp/000051663.htm>)